

札幌市近郊における新入大学生の性知識と性行動

松島可苗

北海道医療大学看護福祉学部看護学科

要 旨

目的：新入大学生の性知識と性行動の実態を調査し、実態に即した支援の手がかりを得ることであった。

方法：札幌市およびその近郊の2003年新入大学生986名を対象に、無記名自記式質問紙調査を実施した。調査項目は、性別、年齢、性教育経験の有無、性知識とその自己評価、性行動と避妊についての考えや経験、性交による妊娠と性感染症の感染について考えた経験とその理由、性に関して知りたいことについてであった。

結果：性に関する問題で正解率が低かったのは、排卵時期、排卵後の卵子の生存期間、射精後の精子の生存期間、避妊成功率が高い避妊法、コンドームを外す時期、性感染症がオーラルセックスによって感染すること、性感染症によってHIV感染しやすくなること、HIV検査が病院以外で実施できることであった。

性交経験があると回答した者の割合は、男女とも約5割であった。そのうち、2回目以降の性交時に「いつも避妊している」と回答した者は、男女とも5割程度であった。

結論：性教育は、具体的な内容を含むとともに、男女が同席のもとで行う必要が考えられた。

キーワード

性知識、性行動、性教育

緒 言

わが国では、母子保健対策として2000年に「健やか親子21」が策定され、主要課題の一つに「思春期の保健対策の強化と健康教育の推進」があげられている¹⁾。その中で、十代の人工妊娠中絶（以下、中絶と略す）実施率、性感染症罹患率、自殺率の減少が目標にされている。この取り組みの背景には、十代の中絶実施率と性感染症罹患率の上昇がある。北海道における20歳未満の中絶実施率は、2002年統計で21.0（女子総人口千対）と全国の12.8に比べて高い状況である²⁾。また、性感染症は、性器クラミジア感染症を中心に増加している^{3), 4)}。

先行研究において、性行動の低年齢化や活発化とともに無防備化が明らかにされており⁵⁻⁷⁾、これらが中絶や性感染症の増加の一因と考えられている。

これまで、中・高校生や大学生を対象とした性知識や性行動の調査が報告されているが、性教育を実施している高校を卒業した直後の若者を対象とした調査は非常に少ない。この時期は性交経験率が半数を超える³⁾ことから、性交経験をもつ頃の若者の性知識と性交についての考えや経験を把握できると思われる。

<連絡先>

松島 可苗

〒061-0293 当別町金沢 1757

北海道医療大学看護福祉学部看護学科

本研究の目的は、新入大学生の性知識と性行動の実態を札幌市近郊で調査し、実態に即した支援の手がかりを得ることである。

方 法

1. 調査対象と方法

調査対象は、札幌市およびその近郊にあり、研究協力の承諾を得られた医療系を除く短期大学と大学6校の2003年4月入学生986名である。授業時間の一部を利用し、無記名自記式質問紙を配布した。質問紙には、研究の趣旨、調査結果をコンピューターで統計的に処理すること、個人の回答が公表されないことを書き添え、その場で筆者が直接回収することを原則とした。協力者に依頼した場合は各自封筒に入れ、密封した状態で回収を行った。

2. 調査項目と調査期間

調査項目は、性別、年齢、性教育経験の有無、妊娠・避妊・性感染症に関する知識とその自己評価、性行動についての考えや経験、避妊についての考えや経験、性交による妊娠と性感染症の感染について考えた経験とその理由、望まない妊娠や性感染症など性に関して知りたいことについてである。

調査期間は、2003年6月5日から2003年7月18日であった。

3. 分析方法

分析には統計ソフト SPSS (11.0) を用い、以下の手順で分析を行った。

- ①全項目について、単純集計を行った。
- ②それぞれの項目について、性別と性交経験の有無別のクロス集計を行い、 χ^2 検定を用いて比較した。

結果

質問紙は、986名に配布し、965名から回答を得た(回収率97.9%)。分析対象は、性別、年齢が記載された20歳以下の914名(男性371名、女性543名)とした。性交経験有と回答した者の割合は、男性190名(51.2%)、女性261名(48.1%)であった。

1. 性教育経験

性教育を受けたことがあると回答した者は、全体の96.2%(男性96.2%・女性96.1%)であった。そのうち、性教育が役立つと感じるかとの質問に対して、「非常に役立つ」または「役立つ」と答えた者の割合は、男女別では男性56.9%・女性72.6%と女性が有意に高く、性交経験の有無別では経験有66.7%、経験無65.4%と有意差はみられなかった。

2. 性知識

妊娠・避妊・性感染症に関する問題の正解率を表1、表2に示した。

表1. 妊娠・避妊・性感染症に関する知識(正解・不正解・分からないと回答した人数と割合)

質問項目(正しい解答)	男性			女性			男女間の比較
	正解	不正解	わからない	正解	不正解	わからない	
	N	N	N	N	N	N	
	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	
妊娠が成立するには、精子と卵子が会うタイミングが重要である(正しい)	244	40	85	353	47	143	ns.
	(65.8)	(10.8)	(22.9)	(65.0)	(8.7)	(26.3)	
排卵後に卵子が妊娠の可能性を持っているのは、約2日間である(正しい)	39	113	217	63	200	280	ns.
	(10.5)	(30.5)	(58.5)	(11.6)	(36.8)	(51.6)	
排卵の時期は、月経の約2週間前である(正しい)	82	46	239	231	87	224	p<0.01
	(22.1)	(12.4)	(64.4)	(42.5)	(16.0)	(41.3)	
精液が妊娠の可能性を持っているのは、射精後約3~5日である(正しい)	102	108	159	172	126	244	ns.
	(27.5)	(29.1)	(42.9)	(31.7)	(23.2)	(44.9)	
思春期で、月経が規則的でない人は妊娠しない(間違っている)	252	13	104	479	5	59	p<0.01
	(67.9)	(3.5)	(28.0)	(88.2)	(0.9)	(10.9)	
(コンドームは)男性用と女性用がある(正しい)	261	49	56	377	78	85	ns.
	(70.4)	(13.2)	(15.1)	(69.4)	(14.4)	(15.7)	
(コンドームは)射精の直前に装着すればよい(間違っている)	325	18	21	402	43	94	p<0.01
	(87.6)	(4.9)	(5.7)	(74.0)	(7.9)	(17.3)	
(コンドームは)射精後、すぐに外さなければいけない(正しい)	181	57	127	288	45	207	ns.
	(48.8)	(15.4)	(34.2)	(53.0)	(8.3)	(38.1)	
避妊法で最も避妊成功率が高いのはどれだと思いますか(ピル)	ピル	コンドーム	左記以外	ピル	コンドーム	左記以外	
	99	221	42	194	291	52	-
	(26.7)	(59.6)	(11.3)	(35.7)	(53.6)	(9.6)	
性感染症は50代男性に多い(間違っている)	226	11	133	313	4	226	p<0.05
	(60.9)	(3.0)	(35.8)	(57.6)	(0.7)	(41.6)	
性感染症は近年増加傾向にある(正しい)	308	5	56	506	0	37	p<0.01
	(83.0)	(1.3)	(15.1)	(93.2)	(0.0)	(6.8)	
症状のほとんどない性感染症もある(正しい)	204	29	133	328	22	190	p<0.05
	(55.0)	(7.8)	(35.8)	(60.4)	(4.1)	(35.0)	
性感染症にかかると不妊症になることがある(正しい)	193	20	153	327	24	190	ns.
	(52.0)	(5.4)	(41.2)	(60.2)	(4.4)	(35.0)	
性感染症にかかっているとHIVに感染しやすくなる(正しい)	122	76	166	159	82	300	p<0.05
	(32.9)	(20.5)	(44.7)	(29.3)	(15.1)	(55.2)	
HIV検査は病院にいかないと出来ない(間違っている)	71	191	103	112	279	150	ns.
	(19.1)	(51.5)	(27.8)	(20.6)	(51.4)	(27.6)	
オーラルセックスで性感染症がうつることがある(正しい)	165	62	139	230	37	274	p<0.01
	(44.5)	(16.7)	(37.5)	(42.4)	(6.8)	(50.5)	
性感染症予防には、膣外射精が有効である(間違っている)	262	44	60	367	39	133	p<0.01
	(70.6)	(11.9)	(16.2)	(67.6)	(7.2)	(24.5)	
性感染症予防には、コンドームが有効である(正しい)	326	12	27	498	11	30	ns.
	(87.9)	(3.2)	(7.3)	(91.7)	(2.0)	(5.5)	

感染しやすくなること、HIV検査が病院以外で実施できることの正解率が低かった。

これらの項目について、男女別でみると、性感染症が増加していること、性感染症がオーラルセックスによって感染すること、性感染症予防には膣外射精が有効ではないことなどの問題5項目で有意差がみられた。性交経験の有無別では、男女とも経験有と回答した者に正解率の高い項目が多かった。

3. 性行動

(1) 性交についての考えと性交経験

性交についての考えを尋ねたところ、「結婚するまでは、性交したいと思わない」との回答者は、男性9.9%・女性12.9%、「愛情が深まった場合、性交すると思う」との回答者は男性92.1%・女性93.5%であった。

性交経験有と回答した者の割合は、男性190名(51.2%)、女性261名(48.1%)であり、男女間での有意差はみられなかった。

(2) 避妊についての考え方と避妊経験

避妊についての考えを尋ねたところ、「必要である」または「どちらかといえば必要である」と回答した者は、男性94.6%・女性99.5%であっ

た。

初めての性交時に「避妊した」と回答した者は、男性65.3%・女性67.8%、2回目以降の性交時に「いつも避妊している」と回答したのは、男性53.3%・女性41.8%であった。主に使う避妊方法は、コンドームが男性94.3%・女性95.7%と最も高かった。

(3) コンドーム使用に関連した行動

コンドームの使用に関連した行動として、「性交の時、コンドームが手元になかった場合」と「性交の時、相手がコンドームの使用を嫌がった場合」にどう思うかについて尋ねた。その結果を表3-1、表3-2に示した。「性交の時、コンドームが手元になかった場合」に、「性交をやめる」と回答した者は、男性24.2%・女性41.4%、「膣外射精する」男性43.5%・女性32.0%であった。男女別では女性、性交経験の有無別では男女とも経験無の者に「性交をやめる」と回答した者が有意に高かった。

「性交の時、相手がコンドームの使用を嫌がった場合」という設問についての結果も同様に、女性、経験無の者に「性交をやめる」と回答した者が有意に高かった。

表3-1. 性交(セックス)の時、コンドームが手元になかった場合の行動

	男 N(%)	女 N(%)	合計 N(%)
性交をやめる	89 (24.2)	224 (41.4)	313 (34.4)
そのまま性交を続ける	39 (10.6)	15 (2.8)	54 (5.9)
膣外射精する	160 (43.5)	173 (32.0)	333 (36.6)
わからない	63 (17.1)	116 (21.4)	179 (19.7)
その他	17 (4.6)	13 (2.4)	30 (3.3)
合計	368 (100.0)	541 (100.0)	909 (100.0)

「性交をやめる」と「その他の項目の合計」を男女間で比較； $p < 0.01$

	男性			女性		
	経験あり N(%)	経験なし N(%)	合計 N (%)	経験あり N(%)	経験なし N(%)	合計 N(%)
性交をやめる	44 (23.3)	45 (26.2)	89 (24.7)	79 (30.4)	141 (51.3)	220 (41.1)
そのまま性交を続ける	27 (14.3)	9 (5.2)	36 (10.0)	10 (3.8)	5 (1.8)	15 (2.8)
膣外射精する	93 (49.2)	66 (38.4)	159 (44.0)	141 (54.2)	31 (11.3)	172 (32.1)
わからない	15 (7.9)	46 (26.7)	61 (16.9)	23 (8.8)	92 (33.5)	115 (21.5)
その他	10 (5.3)	6 (3.5)	16 (4.4)	7 (2.7)	6 (2.2)	13 (2.4)
合計	189 (100.0)	172 (100.0)	361 (100.0)	260 (100.0)	275 (100.0)	535 (100.0)

「性交をやめる」と「その他の項目の合計」を男女、性交経験の有無間で比較；男 $p < 0.01$ 、女 $p < 0.01$

表3-2. 性交（セックス）の時、相手がコンドームの使用を嫌がった場合の行動

	男 N(%)	女 N(%)	合計 N(%)
性交をやめる	90 (24.7)	307 (56.9)	397 (43.9)
そのまま性交を続ける	56 (15.3)	12 (2.2)	68 (7.5)
膣外射精する	137 (37.5)	118 (21.9)	255 (28.2)
わからない	69 (18.9)	88 (16.3)	157 (17.3)
その他	13 (3.6)	15 (2.8)	28 (3.1)
合計	365 (100.0)	540 (100.0)	905 (100.0)

「性交をやめる」と「その他の項目の合計」を男女間で比較： $p < 0.01$

	男性			女性		
	経験あり N(%)	経験なし N(%)	合計 N(%)	経験あり N(%)	経験なし N(%)	合計 N(%)
性交をやめる	42 (22.3)	48 (28.2)	90 (25.1)	128 (49.2)	175 (63.9)	303 (56.7)
そのまま性交を続ける	30 (16.0)	23 (13.5)	53 (14.8)	7 (2.7)	5 (1.8)	12 (2.2)
膣外射精する	88 (46.8)	48 (28.2)	136 (38.0)	96 (36.9)	21 (7.7)	117 (21.9)
わからない	19 (10.1)	47 (27.6)	66 (18.4)	21 (8.1)	66 (24.1)	87 (16.3)
その他	9 (4.8)	4 (2.4)	13 (3.6)	8 (3.1)	7 (2.6)	15 (2.8)
合計	188 (100.0)	170 (100.0)	358 (100.0)	260 (100.0)	274 (100.0)	534 (100.0)

「性交をやめる」と「その他の項目の合計」を男女、性交経験の有無間で比較；男 $p < 0.01$ ，女 $p < 0.01$

(4) 妊娠と性感染症の感染について考えた経験

性交によって、自分（相手）が妊娠するかもしれない、妊娠したかもしれないと考えたことがあるかどうかを尋ねた。その結果、「少し考えたことがある」または「非常に考えたことがある」と回答した者が男性 72.9%・女性 85.1% であり、女性に有意に高かった。

性交によって、自分（相手）が性感染症に感染することについて考えたことがあるかどうかを尋ねた。その結果、「少し考えたことがある」または「非常に考えたことがある」と回答した者が男性 47.2%・女性 46.8% であり、男女間に有意差はみられなかった。

性感染症の感染について考えたことのある者は、妊娠の可能性について考えた経験よりも少なかった。

考 察

本研究の目的は、新入大学生の性知識と性行動の実態を調査し、実態に即した支援の手がかりを得ることであった。

中絶や性感染症予防の活動には、知識提供とともに行動化できるように支援することが重要である。本調査結果から、知識と性行動の実態に即した支援について考察していく。

1. 調査対象者の特性

本研究で分析対象となった学生は 18～20 歳の男女 914 名であり、女性が約 6 割、男女とも 18 歳が概ね 2/3 を占めていた。

本調査結果で性知識の正解率を男女間、性交経験有無別間で比較すると、男性よりも女性、性交経験無の者よりも性交経験有の者に高かった。これは、先行研

究と同様の傾向であった。また、性交経験率、初めての性交時の避妊実行率、2 回目以降の性交時の避妊実行率についても先行研究と同程度であった^{5, 7-10)}。

2. 性知識

妊娠・避妊・性感染症に関する問題の回答結果から、卵子と精子の受精によって妊娠することは知っているが、卵子・精子の生存期間、排卵時期については知らない者が多いこと、避妊方法は知っているが、効果的な避妊方法やコンドームを外す時期については知らない者が多いこと、性感染症に関しては知らない者が多いことが明らかとなった。このことは、性教育で教わった事柄として、70% 以上の大学生が性器のつくりと働き、二次性徴、生命誕生(受精・妊娠・出産)をあげていることから¹¹⁾、生物学的な知識として受精や妊娠を学んでいると考えられる。しかし、妊娠成立に重要となる精子や卵子の生存期間、排卵時期ということまで踏み込んだ性教育が行われていないため、正解率が低かったのではないと思われる。十代は、初経を迎えてから月経周期が安定していくまでの期間でもあるため、月経周期が安定しない理由や月経周期の乱れにかかわらず排卵時期が月経前約 2 週間であることも伝えていく必要がある。また、十代の性交経験率が上昇し、性感染症が増加している状況を考慮すると、効果的かつ普及している避妊方法の使用方法についての情報が必要である。日本で主に用いられている避妊方法はコンドームであり、性感染症予防の観点からもコンドームの使用が望まれる。そのコンドームの正しい使用方法について、装着時期、装着方法、外す時期を含めた情報提供する必要がある。コンドームの装着方法を伝える手段としては、コンドームを模型に装着する実演があるとより理解が深まり、実際のコンドーム使用につながるのではないだろうか。性感染症

予防のためには、性感染症がオーラルセックスで感染すること、HIV感染をも含めた情報提供が必要と考えられた。

2. 避妊行動について

調査結果は、初めての性交時よりも2回目以降の性交時の避妊実行率が低下していたこと、主に用いる避妊方法がコンドームであること、コンドームが手元になかった場合に男性は「性交を中止する」よりも「そのまま性交を続ける」「膣外射精する」と考えている者が多いことを示している。劔⁸⁾は、男性用コンドームが日本で主に用いられている避妊法であるが、避妊費用は男性もちになっていることが多いことを指摘している。避妊方法、避妊具の準備ともに男性任せになっていることは、女性が望まない妊娠や性感染症の予防に無防備であるといえる。コンドームを確実に使用していくためには、女性がコンドームを自ら準備し、相手にコンドーム使用を主張するなどのより積極的な取り組みが必要である。それを支援するためには、男性・女性が同席する場面でコンドーム使用を推奨し、お互いに準備し、使用を主張することが重要であるということを伝える必要があるのではないだろうか。

今後の課題

今後の課題としては、本調査結果に基づく性教育が対象者の予防行動を支援していけるかどうか、必要とされている他の支援方法がないかをより詳細に検討していくことが必要である。

謝辞

本研究は、平成15年度北海道医療大学大学院看護福祉学研究科修士論文の一部を加筆・修正したものである。本研究にご理解頂き、調査協力くださいました短期大学・大学の学科長や主任教員の皆様、学生の皆様に心から感謝致します。また、研究の構想から論文作成まで御指導いただきました深山智代教授（現：長野県立看護大学学長）、工藤禎子助教授に深く感謝致します。

文献

- 1) 厚生統計協会. 国民衛生の動向 厚生指標 臨時増刊号50(9), 厚生統計協会, 2003; 123-141.
- 2) 母子衛生研究会. 母子衛生の主なる統計平成15年度刊行 2004; 80-85.
- 3) 高橋敬一. クラミジア感染症とその対策. 産婦人科治療 2002; 84(3): 292-296.
- 4) 熊本悦明, 南邦弘, 蝦名紀子, 他. 日本における性感染症の流行—若い女性を中心としたクラミジア感染症大流行の実態—. 総合臨牀 2001; 50(10): 2676-2685.
- 5) 原純輔. 「若者の性」白書 第5回青少年の性行動全国調査報告. 日本性教育協会編, 小学館, 2001, 7-22, 177-207.
- 6) 東京都幼稚園・小・中・高・心障性教育研究会編. 2002年調査 児童・生徒の性, 学校図書, 2002.
- 7) 木原雅子, 木原正博, 天野恵子, 他. 平成11年度 厚生科学研究費補助金エイズ対策研究事業 HIV感染症の疫学研究 研究報告書 2000; 584-593.
- 8) 劔陽子, 山本美江子, 松田晋哉. 北九州市内の高校3校における性意識・性行動調査. 日本衛生学会誌 2002; 56(4): 664-672.
- 9) 都筑芳子, 宝田智恵子, 河合久代, 津久井恵美子, 小川寿子, 家坂清子. 群馬県における平成12年度高校生の性意識・性行動に関するアンケート調査. 思春期学 2002; 20(2): 293-295.
- 10) 林謙治, 高柳直巳, 境野圭子, 船橋喜美子, 佐藤隆志. 北海道の一地方都市(苫小牧市)の高校生の性意識, 性行動に関する調査の検討. 日本性感染症学会誌 2001; 12(1): 102-109.
- 11) 中澤智恵. 「若者の性」白書 第5回青少年の性行動全国調査報告. 日本性教育協会編, 小学館, 2001, 107-132.

受付: 2005年2月12日

受理: 2005年3月8日

A study about sexual knowledge and behavior of fresh university students in Sapporo City and its suburbs

Kanae MATSUSHIMA

Purpose: The purpose of this study was to clarify sexual knowledge and behavior of fresh university students in Sapporo City, and to develop supportive methods for young people.

Subjects: 986 fresh university students in Sapporo City and its suburbs.

Methods: Using a self-administered questionnaire, we put them questions about sexual knowledge, sexual behavior and its self-evaluation, experience of sexual education, etc.

Results : About 50% of the subjects had the experience of sexual intercourse. The percentage of the subjects that gave a correct answer was low in some of the questions, e.g., ovulation time, survival span of an ovum and a sperm, kinds of the most effective contraception, time of taking off a condom, possibility of infection of sexually transmitted diseases by oral sexual intercourse, possibility of HIV infection with sexually transmitted diseases, facilities for checking HIV infection etc.

Conclusions : Sexual educations should include concrete contents, and should be given simultaneously to male and female students.

key words : sexual knowledge, sexual behavior, sexual education.